

教 育 研 究 業 績

氏名 堀内 秀雄

学位：芸術学修士・教育学士

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
芸術学	芸術一般 彫刻 造形教育	
主要担当授業科目	造形表現 課題研究	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) 「図画工作科研究」授業の実践	平成元年 ～平成12年	愛知教育大学にて「図画工作科研究」を担当
2) 「保育内容(表現)」授業の実践	平成17年 ～平成29年	静岡大学にて「保育内容(表現)」を担当
		ほか、名古屋短期大学、愛知県立保育大学校、金城学院大学、東京家政学院大学、東京文化短期大学、東京成徳大学等で造形・保育関係の授業を担当
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
1) 学生による授業評価システム策定	平成14年 ～現在	学生による授業評価システムの策定に参画し、以後継続的にその運用・検討を行ってきた。平成18年にはFD委員長としてそれまでの評価結果推移についてのとりまとめを行い、報告書を作成した。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
第40回・改組新第1回日展	平成20・26年・令和4年	第40回・改組新第1回日展第三科(彫刻)審査員
第31・39回日本彫刻会展	平成13・21年	第31・39回日本彫刻会展 審査員
千葉県美術展	昭和62年・平成5・12・18・22年・令和2・6年	千葉県美術展彫刻部審査員
第91回白日展	平成27年3月～現在	第91回白日展 彫刻部審査員
東京成徳大学「子どもサポーター養成講座」	平成20～22年	「子どもサポーター養成講座」講師
日展「親子観賞教室講座」	平成13年～令和元年	「親子観賞教室講座」講師
日展「作品映像解説会」	平成20・22年	「作品解説会(映像による)」講師
日展「ワンディアート講座」	平成17年～令和元年	「ワンディアート講座」講師
教員免許更新講習	平成22年7月	「教員免許更新講習(造形)」講師
5 その他 特記事項なし		
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		

1) 小学校教諭2級免許 2) 中学校教諭1級(美術) 3) 高等学校教諭2級(工芸) 4) 高等学校教諭1級(美術)	昭和55年3月 昭和55年3月 昭和55年3月 昭和58年3月	免許番号:昭54小2普第162号(千葉県教育委員会) 免許番号:昭54中1普第475号(千葉県教育委員会) 免許番号:昭54高2普第509号(千葉県教育委員会) 免許番号:昭57高1普第207号(茨城県教育委員会)
2 特許等 特記事項なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 日本彫刻会 日展 千葉県美術会 保育士養成協議会	平成10年～25年 平成12年～現在 平成20年～現在 平成17年～現在	会務委員・会報委員・出版・広報委員 日展観賞プロジェクト委員 千葉県美術会理事 保育士養成協議会委員
4 その他 第24回「日彫展」(東京都美術館) 第25回「日彫展」(東京都美術館) 第58回「白日展」(東京都美術館) 第90回「白日展」(国立新美術館) 第29回「日展」(東京都美術館) 第31回「日展」(東京都美術館) 第36回「千葉県展」(千葉県立美術館)	平成6年4月 平成7年4月 昭和57年3月 平成25年11月 平成9年11月 平成11年11月 昭和59年10月	第24回「日彫展」日彫賞(社団法人日本彫刻会) 第24回「日彫展」日彫賞(社団法人日本彫刻会) 第58回「白日展」白日賞(白日会) 以後会友奨励賞、準会員奨励賞受賞 第90回「白日展」吉田賞(白日会) 第29回「日展」特選(公益社団法人日展) 第31回「日展」特選(公益社団法人日展) 第36回「千葉県展」美術会賞(千葉県美術会) 以後 美術会賞 県展賞受賞

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 「ロダンのかげの彫刻家たち —もうひとつの近代具象彫刻論」	共著	平成7年 7月	あい書林	(全体概要) 彫刻史の中で近代とは、彫刻が建築・宗教・文学から独立していくという観点から重要な意味を持っている。この点から考えるとロダンの存在意義は確かに大きい。しかし近代以降彫刻を展開、発展させたのはロダンばかりではない。そこで彫刻作家自らが作家の目から近代の彫刻家を再評価した。 (担当部分概要) P.75～P.108 近代フランス彫刻史におけるマイヨールの評価について、ロダンとの比較の中で再考を試みた。 (著者名: 宮崎甲、植木章江、堀内秀雄、上野弘道、一畑田徹、神谷陸代)
2. 「すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現」	共著	平成23年 3月	保育出版社	乳幼児、学生を中心に、造形表現活動の過程を重視し「体感と思考」の実践事例から造形の本質を問いかける。また、考えたことや会話の内容を記録し、思考を深めることにより、自身の指針として本書を再構成することが出来る構造となっている。この中で第3章、第3節「泥・土・砂・石」を担当。 (共著者: 平田智久、小野 和、宮野 周、首藤 晃、平山隆浩、石川博章、永渕泰一郎、藤原明子、戸潤幸夫、杉本亜鈴、武田信吾、武田京子、堀内秀雄、ほか)

3.「造形指導の現場と大学授業の実際から見る幼稚園教諭養成大学 造形カリキュラムのあり方」	共著	平成 29 年 10 月	東京成徳短期大学 研究紀要第 51 号	幼児の造形指導の現場における問題点の抽出を行い、その考察から幼稚園教諭養成大学での造形カリキュラムの在り方について考察を加え、望ましい授業について、実際の授業展開に検討をくわえ提案を行った。（共著者：堀内秀雄、杉本亜鈴）
(学術論文) 1「蠟型石膏鑄造法(ロストワックス法)による彫塑表現の研究と実際」 —作品「蜻蛉」と研究報告— (修士論文)	単著	昭和 58 年 3 月	筑波大学大学院	彫塑表現における鑄造の果たす役割の重要性に着目し、彫塑表現の一部として作者自らが行う鑄造の可能性について実験をとおり記述した。
(その他・作品発表) 1. 彫刻作品 「ひとつのエピローグ」	単	平成 12 年 4 月 平成 12 年 10 月	第 30 回 日彫展 第 52 回 千葉県展	等身大・全身・座像 (170×70×70) 石膏・鉄 東京都美術館 会員出品 10 年来の制作環境最後の作品。粘土と石膏を用いた裸婦彫刻、一時は石膏に代わって FRP を使用したこともあったが、今回の制作では当初の素材である石膏を、着色を行わずにそのままでの仕上げを行い、石膏素材の材質感を損なわない方向で仕上げを試みている。 千葉県立美術館 審査員出品
2. 彫刻作品「紀のヒエログリフ」	単	平成 12 年 11 月	第 32 回 日展	等身大・全身・立像 (182×50×40) 石膏 東京都美術館 無鑑査出品 西暦 2000 年の節目の年、また自身の生活にとっても大きな節目の年。時の流れ、人生の流れを彫刻という象形文字に託して表現した女性立像。制作環境の変化に伴う条件を具体的にどのように克服するか、技法上の工夫がテーマとなった作品。
3. 彫刻作品「ダンスーズ」	単	平成 13 年 3 月	第 77 回 白日展	頭像 (40×18×18) F. R. P. 東京都美術館 会員出品 女性ダンサーをモデルとした、等身大の頭像作品。首の形の中に、ダンサーの持つ表現への意欲や、夢・希望を託した作品。粘土造形の後 FRP 素材に置換し、黒御影石の台に設置。
4. 彫刻作品「Reflection」	単	平成 13 年 4 月 平成 13 年	第 31 回 日彫展 第 31 回	等身大・全身・座像 (160×70×50) 石膏 東京都美術館 会員出品 「Reflection」とは「反射」を意味し、大き目の地山の上に、裸婦の座像を配し、地山上面に金色の光沢を持たせた。裸婦の造形は様々な思念の反射から生まれた形であることを暗示し、形象化した。 愛知芸術文化センター

		5月 平成13年 7月	日彫展 第31回 日彫展	選抜出品 石川県立美術館 選抜出品
5. 彫刻作品「スタンス」	単	平成13年 11月	第33回 日展	等身大・全身・立像 195×55×55 cm 石膏 東京都美術館 委嘱出品 等身大・全身の女性像で、変化の少ない正面を直視した形のポーズの中にそれぞれの立ち位置を意識化することを制作のテーマとした。
		平成14年 10月	第54回 千葉県展	千葉県立美術館 実行委員出品
6. 彫刻作品「バンダナ」	単	平成14年 3月	第78回 白日展	胸像 60×45×25 cm 石膏 東京都美術館 会員出品 街で見かけた面白い形のバンダナ巻きの女性をテーマに、造形化を試みた。石膏を材料としたが、着色に工夫をし、深みのある色合いに、改めて彫刻の素材感を問い直す一作である。
7. 彫刻作品 「希求—Ancient an Current」	単	平成14年 4月	第32回 日彫展	等身大・全身・立像 200×42×42 cm 石膏 東京都美術館 会員出品 下半身を神殿の柱のように抽象化し、上に伸びる 力の表現を作り、手を上に上げたポーズの女性像。上に上げた手、その先に何を求めるのか、過去と現在を見つめ、未来を暗示する作品。 愛知芸術文化センター 選抜出品
		平成14年 5月 平成14年 6月		富山県立美術館 選抜出品
8. 彫刻作品 「Chapter KODOMO —まほろの時—」	単	平成14年 7月	第3回 新選抜 99	等身大・全身・立像 110×50×30 cm F.R.P. 鉄 銀座美術家会館 日本彫刻会選抜出品 5歳の娘をモデルにし、あえて凛と立つ、子どもらしくないポーズの作品。子どもとしての一時代に確実に正対する、その姿勢を作品化した。
9. 彫刻作品「未完のCanon」	単	平成14年 11月	第34回 日展	等身大・全身・立像 190×60×50 cm 東京都美術館 委嘱出品 「Canon」それは「規範」「標準」などを意味する。ここでは、目標とすべき規範を延びやかに求める姿勢を造形化しつつ、まだ達し得ない途中で形として人物女性像を形象化した。
		平成15年 10月	第55回 千葉県展	千葉県立美術館 実行委員出品
10. 彫刻作品「Process—15—」	単	平成15年 3月	第79回 白日展	胸像 75×40×25 cm 石膏 東京都美術館 会員出品 15歳になった少年の胸像である。今だ成年男子の形に成長しきれていない、形として

				の危うさも含め 15 歳の少年の持つ現実として形に表現した。
11. 彫刻作品「The other side」	単	平成 15 年 4 月	第 33 回 日彫展	等身大・全身・立像 200×42×42 cm 石膏 東京都美術館 会員出品 椅子に座り、ひざを抱えるように前屈した裸婦像で、背中が全体の造形要素の多くを占める作品。人物形にとっての裏である背中をメインにし、その存在の意義を問いかけた造形。
		5 月 6 月	名古屋展 北陸展	愛知芸術文化センター 選抜出品 石川県立美術館 選抜出品
12. 彫刻作品「穏やかに、カノン」	単	平成 15 年 11 月	第 35 回 日展	等身大・全身・立像 200×60×60 cm 石膏 東京都美術館 委嘱出品 カノンシリーズの 2 作目で、本来であれば絶対の基準である「カノン」を柔軟に捉え、未完と不確実をも許容することを造形の中で問いかけた、女性立像。
13. 彫刻作品「時の断面 2004」	単	平成 16 年 2 月	千葉県選抜展	等身大・トルソ・立像・座像・群像 170×130×90 cm 石膏 千葉県立美術館 選抜出品 絶え間なく流れる時の中で、その一時期を切り取るように、彫刻家の日常の一瞬を形象化した。男性像トルソと裸婦彫刻のトルソとの群像。形の切り取り方に、時の連続性と瞬間とを暗示した。
14. 彫刻作品「見えない声」	単	平成 16 年 3 月	第 80 回記念白日展	胸像・トルソ 60×40×25 cm テラコッタ 東京都美術館 会員出品 口と鼻の間で頭部を切り取り、腕と腰から下を切り取ったトルソ。テラコッタ（素焼き粘土）の素材感を活かし、実在としての強さと暖かさを見せながら、目の位置を切り取り、口を開いて語ることの違和感を、作品としてまとめあげた。
15. 彫刻作品 「The other side—II」	単	平成 16 年 4 月	第 34 回 日彫展	等身大・全身・臥像 90×90×45 cm 石膏 東京都美術館 会員出品 胡坐で前屈し、片手を前に投げ出したポーズの裸婦像で、多くの直立人物像ポーズに対して、構成的に対峙する表現である。 愛知芸術文化センター 選抜出品 富山県立美術館 選抜出品
16. 彫刻作品「或るカノン」	単	平成 16 年 7 月	日彫会新鋭選抜展	1 / 2 等身大・全身・立像 90×45×30 cm テラコッタ 銀座美術家会館 日本彫刻会選抜出品 直立に正対し、動きを抑えたポーズの女性像。焼成粘土（テラコッタ）を素材に、実在・存在の基本を直視し、その規範性を緩やかに問いかけた作品。
17. 彫刻作品 「夢とインテンション」	単	平成 16 年 11 月	第 36 回 日展	等身大・全身・立像 190×65×45 cm 石膏 東京都美術館 委嘱出品

				夢を持つこと、それを意思を持って正対すること。そんな思いを、金の洋ナシを手のひらに載せ、直立する女性像の形に表現した。
18. 彫刻作品「詢季」	単	平成 17 年 3 月	第 81 回 白日展	頭像 66×26×26 cm テラコッタ 東京都美術館 会員出品 14 歳の少年の頭像。少年の一途さと不安、希望と現実、様々な思いをこめた焼成粘土（テラコッタ）による作品。
19. 彫刻作品「見えない声Ⅱ」	単	平成 17 年 4 月	第 35 回 日彫展	等身大・トルソ・立像 120×50×40 cm 石膏・鉄 東京都美術館 会員出品 「見えない声」の 2 作目の作品。トルソ部分を忠実に写実し、存在感を強めつつ、目の部分を切り取り口で語ることの違和感を意図的に作品化した。
20. 彫刻作品 「カノンー日日の選択」	単	平成 17 年 11 月 平成 18 年 10 月	第 37 回 日展 第 58 回 千葉県展	等身大・全身・立像 190×65×45 cm 石膏 東京都美術館 委嘱出品 カノンシリーズの一作。人は日々、時々、またその瞬間瞬間に様々な選択を迫られる。いわば人が生きることは小さな・大きな選択の集大成のようなものである。ほぼ同じ位置に掲げた左右の手は、機軸であるはずのトルソ部分から二者択一を提示されたその瞬間の形である。 千葉県立美術館
21. 彫刻作品「S のモジュール」	単	平成 18 年 3 月 4 月 4 月 5 月	第 82 回 白日展 名古屋展 鹿児島展 関西展	等身大・トルソ 70×40×30 cm テラコッタ 東京都美術館 会員出品 シニョンスタイルの女性胸像。テラコッタの材質を磨き上げ、焼成粘土素材の新しい表現の可能性を探った作品。磨きテラコッタは色合いとマチエールから女性の皮膚感覚に近い表現が可能となり、ある意味ではモデルの实在感を伝え易いが、作品化としては危険性ははらんでいる。 愛知芸術文化センター 鹿児島県歴史資料センター黎明館 近鉄百貨店本店アート館
22. 彫刻作品「見えない声Ⅲ」	単	平成 18 年 4 月	第 36 回 日彫展	等身大・トルソ・立像 120×50×40 cm 石膏・鉄 東京都美術館 会員出品 偏立の裸婦トルソ作品。「見えない声」シリーズ 3 作目でいっそう隠喩的に思惟のない語りを隠しこむ、いわば気づかずにそこにある様子を作品化した。
23. 彫刻作品「7 月の軌跡」	単	平成 18 年 7 月～12 月	中村晋也 門下生展	頭像 60×30×20 cm テラコッタ 中村晋也美術館 9 歳の娘の頭像。焼成粘土（テラコッタ）の質感を少女の頭部の表現に効果的に利用した。作者の粘土素材を用いた制作の軌跡が克明に残る技法として、テラコッタの魅力を引き出している。
24. 彫刻作品 「或るカノンー夢を」	単	平成 18 年 11 月	第 38 回 日展	等身大・全身・立像 200×60×50 cm 石膏 東京都美術館 委嘱出品

				「カノン」シリーズの作品。縦溝の柱として女性の下半身を表現し、地山部にたまった塊を規則正しく吊り上げていくそんな力の中に女性像を置き、静謐な上昇感を表現した。
25. 彫刻作品「Dix ans」	単	平成 19 年 3 月 4 月 4 月 5 月	第 83 回 白日展 名古屋展 鹿児島展 関西展	頭像 54×56×20 cm テラコッタ 東京都美術館 10歳の娘の頭像。10歳の区切りの年を制作の一つのきっかけとして作品化。子どもから少女へと意思や個性がより際立って見え始めるこの頃、形の表現にもその特徴の造形化が求められ、頸・眼・頭頂部などの表現に工夫を凝らせた。 愛知芸術文化センター 鹿児島県歴史資料センター 近鉄百貨店本店アート館
26. 彫刻作品 「イリュージョン —時代と果実」	単	平成 19 年 5 月	日本彫刻会	静物彫刻 54×25×20 cm テラコッタ 日本橋三越 ギリシャのイオニア式の神殿柱頭の形と、洋ナシをモチーフにした静物彫刻作品である。歴史に洗われつつも現代にまでその形をとどめるものと、すぐにでも朽ちていく生の果物である洋ナシとを対比させつつ構成した。焼成粘土（テラコッタ）という素材の持ち味が、対比的な形を融合させる役割を担っている。
27. 彫刻作品 「ある日—過去・未来」	単	平成 19 年 6 月 7 月 8 月	第 37 回 日彫展 名古屋展 北陸展	等身大・トルソ・立像 110×50×40 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品 焼成粘土（テラコッタ）輪積み技法による、半身女性像。立ち止まったその日に、過去と未来とに思いをめぐらせる。時の流れをテーマとし、ある日は過去の未来形であり、未来の過去形がそのある日にあたる。単純な構成の柱のような人物像であるが、800度の火の中を潜り抜け、永遠に続く素材へと変化していくテラコッタ技法ならではのテーマを大切にしたい。 愛知芸術文化センター 会員選抜出品 石川県立美術館 会員選抜出品
28. 彫刻作品 「或るカノン —something precious」	単	平成 19 年 11 月 平成 20 年 10 月	第 39 回 日展 第 60 回 千葉県美術展	等身大・全身・立像 189×70×53 cm 石膏 国立新美術館 委嘱出品 カノン（基準・規範）をテーマとした連作である。一つの理想を思索の軸に置きたい気持ちを立体の中でどう具現化するか、連作の中で今回の作品では形の様式化を進めてみた。整理された形は一層一つの理念を際立たせる効果を持つようである。 千葉県立美術館 理事出品

29. 彫刻作品「時の滴」	単	平成 20 年 3 月	第 83 回 白日展	等身大・トルソ・立像 95×45×36 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品 「時の滴」とは、流れる日常、日々の出来事の中から、僅かずつたまった水粒が集まって一つの滴になって落ちていく、そんな自然の流れの中で作品を捉えたとき、そこにはどんな形が出来ていくのだろうか。テラコッタの輪積み技法を発展的に用いた作品である。 愛知芸術文化センター
		4 月	名古屋展	
30. 彫刻作品「種と果実」	単	平成 20 年 6 月	第 38 回 日彫展	等身大・トルソ・立像 100×48×37 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品 テラコッタ輪積み技法での作品。胸の前に手を置きその中には小さな種を持っている。その種はその後どんな花を咲かせ実を結ぶのだろうか、そうした思索の広がりを感じ、見るものをイメージの世界に誘うことが出来れば、作品の一つの狙いでもある。 愛知芸術文化センター 会員選抜出品 富山県立美術館 会員選抜出品
		7 月 8 月	名古屋展 北陸展	
31. 彫刻作品 「或るカノンーリフレクション」	単	平成 20 年 11 月	第 40 回 日展	等身大・全身・立像 230×70×53 cm 石膏 国立新美術館 審査員 出品 形とは理念の反射から生まれるもののように考える。今回の作品では、われわれの目にするものの中で最も大きな反射である月の形を利用し、規範として上昇する人の気を、月の形が反射させ、鋭くも柔軟にわれわれに投げかえす、そんな思いの形象化を試みた。 京都市美術館 愛知芸術文化センター(愛知県美術館ギャラリー) 大阪市立美術館 富山県民会館美術館 福岡県立美術館 長崎県美術館 長崎歴史文化博物館
		以後 全国巡回 12 月 平成 21 年 1 月 2 月 4 月 6 月 8 月	京都展 名古屋展 大阪展 富山展 福岡展 長崎展	
32. 彫刻作品「Uのペルソナ」	単	平成 21 年 3 月	第 85 回 記念 白日展	頭像 40×40×30 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品 特定の人物をモデルとした作品ではなく、形態・量・流れ・マチエールなどをモザイクのようにちりばめ、再構成したテラコッタの頭像である。頭像という彫刻では基本的な造形において、Unidentified(未確認)な彫刻世界を発見できることを期待した試みの作品である。
33. 彫刻作品「Fの決断」	単	平成 21 年 6 月	第 39 回 日彫展	等身大・トルソ・立像 120×57×37 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品 愛知芸術文化センター 会員選抜出品 石川県立美術館 会員選抜出品
		7 月 8 月	名古屋展 北陸展	

34. 彫刻作品 「或るカノン-思索する時」	単	平成 21 年 11 月	第 40 回 日展	等身大・全身・立像 134×50×40 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品
35. 彫刻作品 「想-glittering object」	単	平成 22 年 3 月	第 86 回 白日展	頭像 77×40×40 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品
36. 彫刻作品「対峙結晶」	単	平成 22 年 6 月	第 40 回記念 日彫展	等身大・トルソ・立像 115×45×35 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 審査員 会員出品
		7 月	名古屋展	愛知芸術文化センター 会員選抜出品
		8 月	北陸展	富山県立美術館 会員選抜出品
37. 彫刻作品 「或るカノン -モンジュの知恵」	単	平成 22 年 11 月	第 42 回 日展	等身大・全身・立像 132×48×38 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品
38. 彫刻作品「日日の選択-II」	単	平成 23 年 3 月	第 87 回 白日展	等身大・全身・立像 200×70×55 cm 石膏 国立新美術館 会員選抜特別出品
39. 彫刻作品「唯一無二」			名古屋展	愛知芸術文化センター
40. 彫刻作品 「或るカノン-垂心」			福岡展 関西展	福岡県立美術館 大阪市立美術館
41. 彫刻作品「土の軌道-再結晶」	単	平成 23 年 6 月	第 41 回 日彫展	等身大・トルソ・立像 120×50×40 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品
		7 月		愛知芸術文化センター 会員選抜出品
		8 月		石川県立美術館 会員選抜出品
42. 彫刻作品 「或るカノン-真実の所在」	単	平成 23 年 11 月	第 43 回 日展	等身大・全身・立像 130×48×35 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品
43. 彫刻作品 「思索の彼方-その果実」	単	平成 24 年 3 月	第 88 回 白日展	等身大・全身・立像 73×45×36 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品
			名古屋展	愛知芸術文化センター
			鹿児島展	
			関西展関西展	大阪近鉄アート館
44. 彫刻作品 「思索の行方 -過ぎた時、迎える時」	単	平成 24 年 4 月	第 42 回 日彫展	等身大・トルソ・立像 130×48×37 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品
		5 月	名古屋展	愛知芸術文化センター 会員選抜出品
		5 月	北陸展	富山県立美術館 会員選抜出品
45. 彫刻作品 「或るカノン-想いの行方」	単	平成 24 年 11 月	第 44 回 日展	等身大・トルソ・立像 135×48×35 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品
46. 彫刻作品 「ふたつの心-Oui et Non」	単	平成 25 年 3 月	第 89 回 白日展	等身大・胸像 73×45×36 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品
			名古屋展	愛知芸術文化センター
			長崎展	長崎県立美術館
			関西展	あべのハルカス近鉄本店

47. 彫刻作品「思惟―選択の理」	単	平成 25 年 4 月	第 43 回 日彫展	等身大・胸像 82×52×35 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品 愛知芸術文化センター 会員選抜出品 石川県立美術館 会員選抜出品
48. 彫刻作品「或るカノン―植」	単	平成 25 年 11 月	第 45 回 日彫展	等身大・トルソ・立像 122×45×36 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品
49. 彫刻作品「Plante―」	単	平成 26 年 3 月	第 90 回 白日展 名古屋展 長崎展 関西展	等身大・胸像 68×40×40 cm テラコッタ 国立新美術館 会員出品 吉田賞受賞 愛知芸術文化センター 長崎県立美術館 あべのハルカス近鉄本店
50. 彫刻作品「軸と彎曲」	単	平成 26 年 4 月	第 44 回 日彫展	等身大・胸像 95×50×40 cm 石膏 東京都美術館 会員出品 愛知芸術文化センター 会員選抜出品 富山県立美術館 会員選抜出品
51. 彫刻作品 「或るカノン―植Ⅱ」	単	平成 26 年 11 月	改組新第 1 回 日彫展 京都展 名古屋展 大阪展 福岡展 富山展	等身大・全身・立像 170×60×50 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 審査員出品 京都市美術館 愛知県美術館ギャラリー 大阪市立美術館 福岡市美術館 富山県民開館美術館
51. 彫刻作品「One Resolve」	単	平成 27 年 3 月	第 91 回 白日展 名古屋展 長崎展 関西展	等身大・胸像 70×35×27 cm テラコッタ 国立新美術館 審査員出品 愛知芸術文化センター 長崎県立美術館 あべのハルカス近鉄本店
52. 彫刻作品 「Imagine」	単	平成 27 年 4 月	第 45 回 日彫展	等身大・半身像 114×45×35 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品
53. 彫刻作品 「或るカノン―植Ⅲ」	単	平成 27 年 11 月	改組新第 2 回日彫展	等身大・全身・立像 127×50×40 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品
54. 彫刻作品 「雲をつかむ思索」	単	平成 28 年 3 月	第 92 回 白日展 名古屋展 長崎展 関西展	等身大・頭像 45×25×20 cm テラコッタ 国立新美術館 常任委員出品 愛知芸術文化センター 長崎県立美術館 あべのハルカス近鉄本店

55. 彫刻作品 「クラウドの行方」	単	平成 28 年 4 月	第 46 回 日彫展	等身大・胸像 85×50×35 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品
56. 彫刻作品 「或るカノンー植IV」	単	平成 28 年 11 月	改組新第 3 回日展	等身大・全身・立像 155×45×35 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品
57. 彫刻作品 「夢・祈り・そして今」	単	平成 29 年 3 月	第 93 回 白日展 名古屋展 関西展	等身大・半身像 92×40×40 cm テラコッタ 国立新美術館 常任委員出品 愛知芸術文化センター あべのハルカス近鉄本店
58. 彫刻作品 「誓う時」	単	平成 29 年 4 月	第 47 回 日彫展	等身大・胸像 71×40×35 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品
59. 彫刻作品 「或るカノンー送る祈り」	単	平成 29 年 11 月	改組新第 4 回日展	等身大・全身・立像 93×45×35 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品
60. 彫刻作品 「雲の行方」	単	平成 30 年 3 月 4 月 5 月	第 94 回 白日展 名古屋展 関西展	等身大・半身像 92×40×40 cm テラコッタ 国立新美術館 常任委員出品 愛知芸術文化センター あべのハルカス近鉄本店
61. 彫刻作品 「明日へのカノン」	単	平成 30 年 4 月 5 月 6 月	第 48 回 日彫展 名古屋展 北陸展	等身大・半身像 121×43×30 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 審査員出品 愛知芸術文化センター 会員選抜出品 石川県立美術館 会員選抜出品
62. 彫刻作品 「或るカノンーあまねく光」	単	平成 30 年 11 月	改組新第 5 回日展	等身大・全身・立像 132×45×35 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品
63. 彫刻作品 「或るカノン-feu du soleil」	単	令和元年 11 月	改組新第 6 回日展	等身大・全身・立像 132×45×33 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品
64. 彫刻作品 「或るカノンー想いを抱いて」	単	令和 2 年 11 月	改組新第 7 回日展	等身大・全身・立像 137×49×38 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員出品
65. 彫刻作品 「雲と理（ことわり）」	単	令和 3 年 3 月 5 月 6 月	第 97 回 白日展 名古屋展 関西展	等身大・胸像 80×44×30 cm テラコッタ・石（トラバーチン） 国立新美術館 常任委員出品 愛知芸術文化センター あべのハルカス近鉄本店

66. 彫刻作品 「雲と風と理（ことわり）」	単	令和3年 4月	第50回 記念 日彫展	等身大・胸像 90×40×35 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品
67. 彫刻作品 「或るカノン -円環に想いを託し」	単	令和3年 11月 12月 令和4年 1月 2月 4月 5月	第8回日展 (巡回展)	等身大・全身・立像 137×52×40 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 会員審査員出品 京都市京セラ美術館 愛知県美術館ギャラリー 大阪市立美術館 安曇野市豊科近代美術館 石川県立美術館
68. 彫刻作品 「雲と理-face the fact」	単	令和4年 3月 4月 6月	第98回 白日展 名古屋展 関西展	等身大・胸像 77×35×27 cm テラコッタ・石（トラバーチン） 国立新美術館 常任委員出品 愛知芸術文化センター あべのハルカス近鉄本店
69. 彫刻作品 「正視の結晶」	単	令和4年 4月	第51回 日彫展	等身大・半身像 150×40×28 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品
70. 彫刻作品 「或るカノン 一理（ことわり）の行方」	単	令和4年 11月	第9回 日展	等身大・全身像 180×60×47 cm テラコッタ 国立新美術館 特別会員出品
71. 彫刻作品 「理の選択」	単	令和5年 3月 5月 6月	第99回 白日展 名古屋展 関西展	等身大・胸像 75×38×28 cm テラコッタ・石（トラバーチン） 国立新美術館 常任委員出品 愛知芸術文化センター あべのハルカス近鉄本店
72. 彫刻作品 「或るミッション 一理の選択Ⅱ」	単	令和5年 4月	第52回 日彫展	等身大・胸像 154×40×30 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品
73. 彫刻作品 「或るカノン 一理の選択」	単	令和5年 11月	第10回日展	等身大・全身・立像 202×107×50 cm 石膏・鉄 国立新美術館 特別会員出品
74. 彫刻作品 「しなやかに凜と一雲と理」	単	令和6年 3月 4月 6月	第100回 白日展 名古屋展 関西展	等身大・胸像 77×38×30 cm テラコッタ・石（トラバーチン） 国立新美術館 常任委員出品 愛知芸術文化センター あべのハルカス近鉄本店
75. 彫刻作品 「時を奏でる」	単	令和6年 4月	第53回 日彫展	等身大・半身像 137×40×35 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品

76. 彫刻作品 「理の選択」	単	令和6年 11月	第11回日展	等身大・全身・立像 196×66×53 cm 石膏・鉄 国立新美術館 特別会員出品
77. 彫刻作品 「理の選択一軸と彎曲」	単	令和7年 3月 4月 6月	第101回 白日展 名古屋展 関西展	等身大・胸像 82×40×39 cm テラコッタ・鉄 国立新美術館 常任委員出品 愛知芸術文化センター あべのハルカス近鉄本店
78. 彫刻作品 「理の旋律」	単	令和7年 4月	第54回 日彫展	等身大・半身像 140×40×35 cm テラコッタ・鉄 東京都美術館 会員出品